

警戒レベルと防災気象情報

気象状況

警戒レベル

住民がとるべき行動

市の対応

気象庁等の情報

数十年に
一度の
大雨

5

命の危険 直ちに安全確保！
すでに安全な避難ができず、命が危険な状況。いまいる場所よりも安全な場所へ直ちに移動等する。

緊急安全確保
※必ず発令される情報ではない

河川氾濫、大雨、土砂災害

キキクル

**レベル5
特別警報**

**災害
切迫**

《 警戒レベル4 までに必ず避難！ 》

4

危険な場所から全員避難
・台風などにより暴風が予想される場合は、暴風が吹き始める前に避難を完了しておく。

避難指示

**レベル4
危険警報**

危険

3

危険な場所から高齢者等は避難
高齢者等以外の人も必要に応じ、普段の行動を見合わせ始めたり、避難の準備をしたり、自主的に避難する。

高齢者等避難

**レベル3
警報**

警戒

2

自らの避難行動を確認
防災マップ等により、自宅等の災害リスクを再確認するとともに、避難情報の把握手段を再確認するなど。

**レベル2
注意報**

注意

1

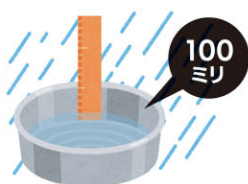
災害への心構えを高める

**早期注意情報
(警報級の可能性)**

「5段階の警戒レベルと防災気象情報」（気象庁）より作成

避難する時の心得

雨の降り方に注意



急に激しい雨が降ったり、連続雨量100ミリ以上の雨が降り続く時は、土砂災害の発生する可能性が高くなります。

気象情報や避難情報を入手



台風が接近したり、大雨になる予報が発表された場合には、気象情報や避難情報などを入手するように心がけましょう。

避難の前に



避難する前に電気・ガスなどの火元を消しましょう。また、親戚や知人に避難する旨を連絡しておきましょう。

危険な箇所を回避



土砂災害の危険箇所や浸水しやすい箇所などを避けて避難しましょう。

避難の呼びかけに従う



避難の呼びかけに従って、すみやかに避難しましょう。

動きやすい服装、2人以上で避難



避難する時は動きやすい服装で、2人以上での避難を心がけましょう。

お年寄りなどの避難に協力



お年寄りや子ども、病気の人は、早めの避難が必要です。近所のお年寄りなどの避難に協力しましょう。

水深が50cm以上は歩くことが危険



水深がひざまで来ると歩くことが困難になります。水深が浅くても流れに勢いがある場合には、むやみに歩き回るとは危険です。

浸水箇所の避難には注意



浸水箇所があった場合には、長い棒や傘などを利用して、水路や側溝などがないか、確認しながら十分注意して避難しましょう。

避難する余裕がなくなってしまった場合



激しい雨が降っている、外が暗くなっている、浸水が始まっているなど、避難する余裕がない場合には、近くの頑丈な建物や家の中でがけや川から遠く、高い場所に移動しましょう。